「ビジョンを語る会」主な意見　多可町商工会女性部

実施日：　8 月 24 日(月)　　人数：14 人

（移住者も一緒に活動）

県道沿いの花壇の整備をしているクラブで、地域の者と一緒に移住者 3 組も活動している。移住者は考え方も明るく、こちらも刺激をもらえる。例えば地元の者は多可町を不便な所と思っているが、移住者はスーパーが近くにあるし大阪まで車で 1 時間もあれば行けるから不便とは思っていない。

（古民家空き家への受け入れは万全）

他地域から来た人に、この辺の良さは何ですかと尋ねたら、地元の方々が外からの人を温かく受け入れてくれることと聞いてうれしくなった。古民家空き家にやってきた人への受け入れ体制は万全だと思う。移住者で子どもを持っている方々は子どもの養育にかかる手厚い保障を期待している。

（外国人技能実習生の受け入れ）

最近は外国人の技能実習生を見かけるようになり、今後はさらに増えていくと思う。今のうちに地域社会で受け入れる仕組みを整備しないと地元住民との間で何か起こるだろうと感じる。

（家業を守る）

家業は呉服屋だが、ここ何年かで着物の需要が減り、他の関連商品を販売している。今一番力を入れているのが健康商品。健康に関するものだったら、お客様の関心も高い。100 年続く家業を大事にしていきたい。

（多可町を「戻りたい町」に）

顔が見えるコミュニティーがあるまちづくりが大事。町を出て行った子どもが子育てを機に戻ってきた。30 年後もそんな町であってほしい。自然環境の維持、医療体制の整備、何でも相談でき孤立せずに子育てができることがカギだろう。

（子どもが集まるような仕掛け）

子どもたちの修学旅行の受け入れ、体験型の古民家空き家を利用した活動、特産品の活用、そうした楽しい仕掛けを考えれば、子どもたちにたくさん来てもらえる。そのうち人口も増えると思う。

（交通インフラ整備の必要性）

都市に比べて空気が良く自然の中で遊べる、魅力がある地域。若者に残ってもらうためには交通網整備が必要。今は滝野社インターから地道で多可町まで 40 分かかる。高速道路アクセスを整備したら若者は都市へ遊びに行き易く、多可町は住みやすい場所として定住の可能性が出てくるだろう。

（地域や祖父母による子育て支援の重要性）

昔は地域ぐるみで子育てをしていた。TV や新聞で報道されている虐待事件が起こるのは、水くさい世の中になったからだろう。昔は長男夫婦との同居が一般的で、祖父や祖母が子どもの面倒を見ることが普通だった。かつては祖父母に聞いて解決していたことも、今は核家族化が進んで聞く相手がおらず、孤立して虐待をするのではないか。

（子どもに安全な環境を）

小学校通学路の車道と歩道の間の植栽が、5 月～7 月になると雑草が背丈までの高さになる。中学生が堤防を自転車で通学しているが、雑草で見づらくタイヤが川にはまらないか心配。子どもの生活に安全な環境が必要だ。

（田舎の良さを伝える）

地域では高齢世帯や空き家が多くなり、子どもの数が減っている。高齢になると医療関係のことが心配で転居される方もいる。私たちの責任は田舎の良さを伝えることだ。

（地元に働く場を）

大学を卒業すると都会で就職する。地元に帰りたい気持ちがあるが、地元に仕事があるのか情報を得る方法も少ない。若者が地域に帰ってきても働く場があることや、定年を迎え戻ってきても働く場があることが大事と思う。

（テレワークで都会並みの仕事ができる）

30 年後の日本はテレワークが進んでいる。地方にいても大都市の企業並みの仕事ができる時代なら、家賃の安い地方で企業がオフィスを構えるようになり、若い世代がたくさん定住すると思う。

（飯米のＰＲも必要）

この辺りは山田錦を作っている家が多いが、寒暖の差があるので、魚沼産に負けないくらい美味しいコシヒカリも取れる。山田錦はＰＲしているが、飯米の方はＰＲしていない。大阪の米穀店に卸しているが多可町のお米は美味しいと人気だ。

（伝統行事をつないでいく）

先人から田舎の伝統行事や祭りを引き継いで守ってきたが、私たちの代からは繋げられていない気がする。30 年後、テレワークでこの地域に来た若者に地域の伝統をつないでいくにはどうするべきか。